

2019年、平成最後の年、 謹んで新年のお慶びを申し上げます。

年が明けて本格的な寒さがやってきましたね。風が冷たくても首元のカシミアや天使のストールでほっこりです。色が少なくなつた冬枯れの植込み。冬には珍しい艶やかな緑のツツブキが好きです。鮮やかな黄色い花に寒さが薄らぎます。

平成最後の年が明けました。小淵さんの、「平成であります」の映像に、「へえ！平成なんだあ！こと、とぼけた反応してしまいました。早いものであれから、もう30年が過ぎたんですね。」「天皇陛下の、「戦争の無かつた平成」という言葉が、心に残りました。



【ファクトリエ・第一工場アワード受賞】

昨年、11月17日（土）、ファクトリエ工場サミットで、第一工場アワードを受賞しました。



お客様とファクトリエさんの社員のみなさんの投票で決まつたそうです。皆様の期待と、受賞の榮譽に応えるべくなお一層頑張ります。

【北上しらゆり大使を拝命】

UTO代表の宇土が、岩手県北上市の、『しらゆり大使』を拝命しました。北上しらゆり大使は、岩手県以外在住、北上市にゆかりのある人で、北上市に提言したり北上市の魅力と良さを折に触れて宣伝することがミッション。

2011年の東日本大震災の後、山梨県中央市から岩手県北上市に工場を移転したのを機に、素晴らしい縁を頂いている北上市です。大使という大役に、どれほどの貢献ができるのか全く自信がありませんが、ご恩返しのため頑張りまします。当社ウェブサイト、北上市の紹介ページも是非ご覧ください。

<https://uto-knit.com/magazine/kitakami>

【UTOのカシミアが好調の地中美術館】

瀬戸内海国立公園に浮かぶ美しい島々。そんな島々の中、香川県(岡山県寄り)に直島という小さな島が浮かんでいます。この島に、建築家・安藤忠雄設計のコンクリート打放しが特徴で、ヨーロッパの美術館関係誌に度々紹介されている地中美術館があります。このミュージアムショップで、一昨年からスタートしたUTOカシミアマフラーが、観光客に人気で、もう3回目の追加注文を頂きました。

【世田谷文学館】

世田谷区の烏山にある世田谷文学館のミュージアムショップで天使の葉がご購入いただけます。一枚324円です。葉の売上の内から、1000円を東日本大震災の被災者支援の為に寄付させていただきます。(3:1を風化させない)



【青山・表参道界限】

UTOはこんな街から発信しています

四半世紀の青山界限

予定は未定？ なかなか変わらない

骨董通りの中ほどの小さなビルの一部屋で始まったUTO。1992年ですから、もう26年、四半世紀以上が過ぎました。

ここへ来た当時の骨董通りは20年かけて拡張されるという事で、通りの両脇のビルをセットバックして建物の2〜3階まではせり出して良いけど、それ以上の階は道路が拡張された時はカットしても利用出来るように建てられていることを聞かされてきました。当時の東京都のホームページにもそのことが書いてありました。

実際に骨董通りのビルの1、2、3階は迫り出していますが、それ以上の階は引っ込んでいて、それでいて面が揃っています。骨董通りの入り口の昨年建った新しいビル、当社の入るたつむら青山ビルやお隣の小原流会館、ニッカウエスキービルなど比較的大きなビルはすでにセットバックして建てられています

20年とは気の遠い話だと思いがちですが、いつも混雑している狭い通りの道幅が広くなり、一本東側のみゆき通りのように、並木が植えられた美しい通りになるという事で、どんな種類の並木になるんだろうと、大変楽しみにしていました。しかし、あれから26年が過ぎても何の変化もありません。歩道にせり出した電柱もそのまま。最近できたビルは他のビルと同様に一階は迫り出して3

階以上は下がっています。いったいあの話はどうなっているのでしょうか。

この頃は10万人ぐらいの地方都市も電柱が無くなりすっかり空がある処が多くなったのに、東京、いや日本を代表するファッションストリートの骨董通りには電柱がせり出し、車椅子などでは歩道は絶対に通れない通りです。

青山通りや表参道通り、骨董通りは多くの人が行きかう賑やかな通りですが、一歩奥へ入った青山は比較的静かです。家やマンションやビルの周りにはちよつとした緑が植えられたり、植栽のスペースがない処は鉢植えにというように緑があるのが素敵です。しかし、残念ながら道路は貧乏でうるさい電柱と絡まった蜘蛛の巣のような電線がずっと付きまといまいます。南青山は1丁目から7丁目まで表通り以外は全てクモの巣状態です。

以前は表参道通りが主だった観光客も、大通からちよつと外れた青山の良さを知ることになったのでしよう。海外からの観光客もスマホを片手に歩くようになりまし。街の景観は、努力して作り出すものだと思います。時間がかかるのは理解できますが、東京都や港区の議員さんたちはどんな構想をもって街づくりをしているんだろうか、と悲しくなります。



カシミア100%・レディス ポートネック チュニック

1112-1353 ¥73,440(税込)

リラックスしたボクシーなシェイプで、ストレスフリーな着心地が魅力のポートネックプルオーバー。



カシミア100%・レディス 5G鹿の子編みハイネックプルオー

16115-1011 ¥81,000(税込)

立体感のある5ゲージのかのこ編みが印象的なハイネックセーター。首周りに心地よくフィットするハイネックで、ぬくもりを感じられる1枚。



カシミア100%・レディス ハイネック ニットベスト

1117-1341 ¥73,440(税込)

シャツやリブニットを合わせてレイヤードスタイルを楽しめるデザインです。



カシミアとニットの話 * (六十二)

カシミアニットの聖地

岩手県北上を世界のニットの聖地にしたい

イタリヤのミラノとフィレンツェの間にモデナという街があります。車好きな方ならすぐに「アー」とっこりする人が多いと思います。ここはイタリヤの名車フェラーリの本社がある処で、F1などの車好きの人なら一度は訪れたいと願う憧れの地なんです。

私の望みは、F1のファンがフェラーリの街モデナを訪れるように、世界中のカシミア好きが、UTOの工場のある岩手県北上に集まってくれる処にしたいのです。

カシミアが好きで、北上に行つて自分のカシミアセーターやストールを作っているところを見たり体験をしたいという人が世界中からUTOに来てくれる。その後、豊かな自然や文化に恵まれたみちのくを旅してもらいたい。そして若者たちに、ここからビジネスをするためにニューヨーク、ミラノをはじめ世界に羽ばたいて欲しいのです。

縁があつて山梨から岩手に移ってきたUTOですが、北上に来たことを機に、北上の人達に支えられてここまでできました。何より岩手の若い職人たちが頑張ってくれています。

モノづくりの環境もブランドの重要な一部だと思っています。

世界最高級の原料で世界中のごくよりの丁寧なモノづくりを基に、広い緑の美しい芝生の中に建つ仕事のしやすい明るく清潔な工場で、芸術品のようなUTOカシミアが作られる。東北で一番お洒落な工場です。モノづくりをしてみたい。そして大都市にも負けない豊かな生活をおくれる経済的な基盤を作ること。こんな工場を残したいと思っています。

20代は世界を飛び回る旅行屋。30代はニットアップレルで日本中のブティックや



百貨店さん等と仕事をさせて頂きました。40代に独立し、無謀にも工場を作つて上手くゆかず、どん底をはいずりました。そして岩手に来たのを機に事業が上向きはじめました。決定的だったのはふるさと納税でカシミアが好評を得たことでした。全国から3年連続で2億円を超える寄附を頂き、北上市にも、寄附者の方々にも喜ばれ、何よりも当社の経営に大きく貢献してくれました。

こうしたウインウインの縁を大切に、岩手の雇用に貢献したい。というより、この地のまじめで丁寧なモノづくりで世界に発信したいと思っています。

大震災で大きな痛手を負つた東北。「岩手の北上には、お洒落で明るいカシミアの会社があるんだよ」と言ってもらえる職場を作ることこそ地方創生の本髄だと思います。

(モデルの写真は、UTOが目指すイタリヤのボッテカペネタ)



「Veneta」ス・マイヤーがデザインした「ガ・ヴェネタのアトリエを訪ねました。」

故郷の世界遺産



「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」という長い名前で世界遺産に登録された、肥前島原はその源となった処でわが故郷です。1637年を「一路南の島原へ」で覚えた年は島原の乱が起つた年ですが、島原出身という一応に「あ！島原の乱ね」と言われます。

16世紀、ポルトガル船が九州に来訪するようになると、肥前の大名の有馬晴信は、最初は南蛮貿易をやりたいたい下心もあつてキリスト教徒になり、住民にも奨励し、領地の多くの住民がキリスト教徒になりました。島原半島の南部の口之津にポルトガル船が訪れ大いに賑わい、キリスト教の学校のセミナリオなどが建てられ、この地方にはキリスト教が定着していました。

その後、有馬晴信は事件を起こし失脚して島原半島を追われます。失脚した晴信の後に松倉重政という譜代大名が大和五条から来ました。

築城が得意で大好きな松倉は、有馬にあつた晴信の居城の日野江城と島原の乱で、一揆軍が立て籠もることになる原城の石垣や材料を使つて立派な島原城を造りました。私に通つた島原高校は原城の三ノ丸にあり、体育の時間やクラブ活動では度々一周1.2キロもあるお堀の周を走らされました。

島原を出て、日本の他のお城を見て我がお城の大きいことに気づきました。大きいと言っても禄高に比例する大きさで、「島原城は20〜30万石の大名のお城と同じぐらい大きい」のです。日本史の先生が、松倉時代は重税で取り立てが相当厳しかったと言っていました。松倉の禄高は4万石。年収400万円の課長が、年収3000万円の重役と同じ家を建てたら相当無理な経済状況だと思っています。

松倉の時代に幕府からキリスト教禁教令が出ますが、住民たちは有馬時代からキリスト教徒たちでした。島原の乱は、改宗に対する厳しさももちろんあつたでしょうが、分不相応なお城を作つた松倉の見栄と趣味と、重税という圧政に対する農民一揆で、その農民がキリスト教徒だったのだと思えてなりません。

島原の乱以前の約5万人の住民。乱で3万7千人が亡くなり、藩としての運営が出来ず幕府が他から移住を募つて藩を維持したそうです。

島原名産の素麺は小豆島から来た人たちが伝えたそうです。悲惨な歴史が残したものなんです。高校生の頃、強烈な夏の日差しの下、崩れた原城跡にさつま芋畑の緑を思い出します。

世界のホテルを旅する(六十二)

元 旅行屋のお勧め 南牧村・長野

八ヶ岳高原ヒュッテ

今回のホテルは想いの深いホテルですが、残念ながら現在は営業していないホテルです。

甲斐性がなく、自分の会社を始めてからは休みを取る余裕がなく随分とご無沙汰ですが、1980年代は、毎年夏になると八ヶ岳高原へ行っていました。泊りはほとんど、以前紹介した八ヶ岳高原ロッジでした。

八ヶ岳高原ロッジは広大な別荘地の中にあり、街からかなり離れ、隔絶間が満喫できる大人のリゾートです。この八ヶ岳高原ヒュッテはその八ヶ岳高原ロッジの中でカフェを営業していて、ロッジからいつも散歩に行く処で、初代支配人の杉本さんから、「向こうも泊まれるので、是非泊りください」と勧められて滞在を伸ばして泊まりました。残念ながら今は閉鎖されて夏場とゴールデンウィークにカフェで営業しています。

徳川家の別荘を移築したと言うドイツ風の建物のヒュッテはこの別荘地のシンボルの存在で、荒削りな木の柱に白い壁の山小屋は八ヶ岳と見事な調和しています。それもそのはず、八ヶ岳と調和が取れて敷地の何処からでも望める場所としてここに決めたことを杉本さんに教えてもらいました。晴れた日はここから八ヶ岳の山頂直下の山小屋まで望めて、その迫力に圧倒されます。

この建物は、尾張徳川家第19代当主、侯爵・徳川義親公の邸宅だったそうです。義親公は、幕末の四賢侯と呼ばれた越前藩主松平春嶽の子で、尾張徳川家へ養子に入り、徳川美術館などを開設した人です。

尾張徳川家は、明治維新以後武士の職を失った旧尾張藩士を養うために、北海道の八雲町の開拓を行います。ヒュッテの階段手すりの見事なクマの一刀彫が印象的で記憶に残っていますが、北海道名物の熊の木彫は、義親が開拓民たちの生活の糧の為にスイスの熊の木彫をヒントに導入したのが切掛けだそうです。



現役で宿泊施設として使われていた時、夏でもストーブが入っていて、歩くとギンギンと音をたてる床や、全館で一つしかない不慣れなお風呂場。一階のこぢんまりしたダイニングなど、ホテルというより山小屋という雰囲気。気が懐かしく思い出されます。夜中に凄風苦雨の音で目覚め、八ヶ岳の自然の厳しさを体験したことが懐かしいホテルです。